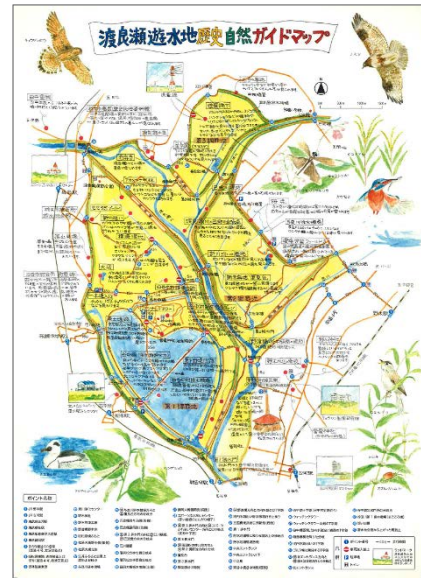


渡良瀬遊水地の鳥たち

日本野鳥の会群馬
野鳥保護対策委員長
水野 敦子

はじめに 2012年にラムサール条約登録地となった渡良瀬遊水地は、多様な動植物が生息し、日本有数の渡り鳥の中継地でもあります。日本は、貴重な湿地の保全と賢明な利用を将来にわたり継続することを世界に向けて約束しました。

今回の展示では、日本野鳥の会群馬も参加する市民ネットワーク「ラムサール湿地ネットわたらせ」が2015年に作成した「ガイドマップ」(左図)を掲示するとともに、遊水地に生息する鳥類について紹介します。



渡良瀬遊水地の位置と成り立ち

「つる舞う形の群馬県」の鶴のくちばしに相当する群馬県の東端、栃木・茨城・埼玉3県との接点に渡良瀬遊水地は位置します。面積は33km²、山手線内側の約半分の大きさで、本州以南最大の広大なヨシ原を含む低層湿原です。この遊水地は、洪水時には、渡良瀬川、巴波川、思川の3河川を遊水地に流入させ水害を防ぐ治水と、水を溜める貯水池(谷中湖)として利水の役割を担っています。

昔、この地域には豊かな田畑や沼が点在していましたが、明治時代、渡良瀬川上流の足尾銅山から流れ出る鉱毒被害が拡大した後、時の政府によって洪水防止の理由で、谷中村を廃村にして堤防が築かれて遊水地となりました。足尾鉱毒の被害を訴え続けた田中正造が村民と共に強制立ち退きに抵抗したのがこの地です。

その後100年間、何度か開発が計画されては消え、湿原は残りました。現在の谷中湖が首都圏の水用の平地ダムとして造成された時には、旧村民や市民の訴えにより、村の遺跡を残す形で今のハート型となりました。

渡良瀬遊水地の植物と環境

毎年3月中頃に行われるヨシ焼きによって、柳樹林化を防ぎ、地面に日が当たり植物が芽吹いて植生が維持されています。他には類を見ないような約1000種(絶滅危惧種60種)もの植物が確認されています。この多様な植生が、昆虫約1700種(絶滅危惧種62種)をはじめ、多種類の動物の生息に繋がっています。食物連鎖の頂点に位置するワシ・タカ類が数多く生息する事は生物相が豊であることの証です。

近年、外来植物の繁茂や乾燥化など問題も山積していますが、国交省、自治体と市民とが一体となって問題解決に向け、湿地再生やセイタカアワダチソウ除去作戦などの様々な取り組みを始めています。

渡良瀬遊水地の鳥類

これまでに 250 種以上（絶滅危惧種 44 種）が記録されています。

一年を通して見られる鳥として、スズメ、ヒヨドリ、ムクドリ、キジバト、シジュウカラ、カワラヒワ、カラス類の他、草原にはキジ、ホオジロ、ヒバリ、モズ、ウグイスなどが、水辺にはサギ類、セキレイ類、カイツブリ、カワウ、カルガモ、オオバンなど、全域で猛禽類のトビ、オオタカ、チョウゲンボウなどが観察されます。春と秋には、シギ・チドリの仲間や小鳥類の渡りの貴重な中継地となります。

春、ウグイスが轉る 3 月下旬、ヨシ焼きが終わると、陽当たりの良い遊水地に春の芽吹きが一気に始まります。この頃、ツバメが渡ってきます。5 月、新芽が伸び始めたヨシ原では数多くのオオヨシキリ、コヨシキリが夜明け前から競って鳴きます。両種がこれほど多数共存する繁殖地は珍しいと言われていています。カッコウの声も聞かれます。オオセッカも毎年繁殖が確認されています。

夏、コアジサシが谷中湖で魚を捕り、ヨシゴイがヨシ原に現れ、多種類の鳥が子育てをします。夏の終わりからツバメが集まり始め時をとるようになり、8 月末から 9 月初旬、時に 10 万羽の大群となり集団で越冬地へと渡っていきます。

秋から冬、北方から多くの冬鳥が越冬に渡って来ます。渡良瀬遊水地は日本有数のチュウヒの越冬地です。少数のハイイロチュウヒが混じります。その他、ノスリも数多く飛来し、コチョウゲンボウ、ミサゴ、ハヤブサなどもよく見られます。草地や屋敷林跡ではツグミ、シメ、ジョウビタキ、ベニマシコなどの冬鳥に会えます。谷中湖にはコガモ、マガモをはじめ多数のカモ類、カンムリカイツブリ、ユリカモメ、セグロカモメ、時にハクチョウやガンが訪れることもあります。

未来に向けて ～トキとコウノトリ～

日本で絶滅したトキとコウノトリを復活させる取り組みが進められています。

トキは新潟県佐渡、コウノトリは兵庫県豊岡を中心に、外国産の個体が繁殖し、その子孫が放鳥され全国へと飛び立っています。渡良瀬遊水地では、最近、コウノトリの飛来が確認されました。しかし彼らが本格的に定着し繁殖するには、エサとなる魚や昆虫が大量に必要です。今、遊水地周辺では、冬水たんぼや無農薬・減農薬田んぼを目指す農家が徐々に増加しています。美味しく安全なお米が食べられるだけでなく、農薬が減りドジョウやイナゴが豊富になれば、近い将来、遊水地でトキやコウノトリの舞う姿も見られることでしょう。

鳥は、人間の引いた境界線など超えて気に入った場所に飛んでいきます。多くの種類の鳥が集まるところは、私たち人間も健康で心豊かに暮らせる場所でもあります。遊水地はみんなの宝もの。重い歴史から始まったこの奇跡の湿地を、これから先も私たちは、ラムサール条約の「賢明な利用」を継続しつつ、多様な生物の楽園を観察できる屋外の「エコミュージアム」として次世代に遺したいと考えています。さあ、あなたもマナーを守って渡良瀬遊水地のヨシ原を歩いてみましょう。

キーワード ラムサール条約登録湿地 湿地保全 ヨシ原 低層湿原 夏鳥 冬鳥
留鳥 渡り チュウヒ シギ・チドリ ツバメのねぐら エコミュージアム